

第6学年図画工作科学習指導案

題材

心を動かされた場面～「おじいさんのランプ」

指導観

○ 本題材は、物語「おじいさんのランプ」をもとに想像を広げ、絵に表したい場面を明確にしていくことで、主人公の心情やランプを中心とした周りの情景を自信を持ってのびのびと絵に表していけることがねらいである。

本題材を児童が取り組む上で、次のような価値があると考えます。

- ① 主人公の巳之助の生き方に感動する場面と美しい物語の雰囲気を表すランプの光を想像することができる場面が一致するため、児童が文章から感動した場面を「心に残った場面」として想像し、絵に表すことができる。
- ② 人物やランプ等、形や色が鮮明な具体物が登場するので、児童は実際に観察、経験することができる。このことにより、児童も自分の表したい場面を明確にし、自信をもって線描きや彩色に取り組んでいくことができる。
- ③ 人物を中心に表したり、情景を中心に表したりというように多様な画面の構成が可能である。そのため、児童の作品にそれぞれの表現のよさがあらわれやすく、鑑賞の際に児童が自分の表現のよさに気づくことができる。

○ 本学級では、児童の86%が図画工作科の学習を好きである。しかし、24%が「絵に表すこと」を苦手と感じている。さらに、教師の学級全体への指導、もしくは個別の助言が有効であると考えている児童が半数いることがわかった。こうした児童のアンケート結果から「絵に表す表現」における指導内容及び方法の明確化が必要であると考えます。

これまでに本学級児童は、みんなに伝えよう～「日本の文化を伝える」で、日本のすばらしさを外国の友だちに伝えるために絵に表してきた。この時の様子を観察していると「かきたいことが思いつかない。」と悩む児童、表したいことがあっても、どのように画面に表してよいかかわからずに相談しにくる児童、「思い通りの形がかけない」や「うまくぬれない」といった技能面での課題を実感している児童と、それぞれの段階で教師の支援を必要としていた。

○ 本題材の指導と評価にあたっては、まず、児童が想像力を豊かに働かせ、表現意欲を高めることができるようにランプの光の暖かさや美しさを体験する場を設定し、その場で物語を読む。次に、画面の組み立てを考える前の段階で、物語に登場する具体物を詳しく観察する取材スケッチを提案する。また、児童が画面の組み立てを考えていくときには、組合せや構成の美しさを考えていくことができるように画面構成ヒント表を提示する。この二つの手立てをもって、児童が主題の表し方を構想していくことができるようにする。そして、彩色においては、基本的な技法をふり返ることのできる資料を準備すると共にランプの光が広がって見えるような新しい表現方法も提案することで、児童が自分の思いに沿って再現することができるようにする。

評価にあたっては、指導事項を整理し、評価規準を設定する。そして、教師の評価、児童の自己評価をもとに毎回の学習の手立てを考えていく。

目標

- 物語「おじいさんのランプ」で心を動かされた場面を絵に表すことを楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- 主人公の気持ちやを周りの様子を想像しながら、重なりや遠近、並び方を考えた画面の工夫ができる。
(発想や構想の能力)
- ランプの光の美しさ等の場面の様子を表すために、用具の特長を生かした線描きや彩色の工夫ができる。
(創造的な技能)
- 作品を進んで鑑賞し、友達の巳之助やランプに対する思いや思いにそった表現方法のよさを感じ取ることができる。
(鑑賞の能力)

「心を動かされた場面～おじいさんのランプ」の指導事項

A表現(2) 表したいことを絵や立体に表したり, 工作に表したりする	
学習指導要領における指導事項	教科書による指導事項の明確化
<p>ア 表したいことを表すために、形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、つくるものの用途などを考えるとともに、表し方を構想し計画して創造的な技能などを生かして表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自在に発想し、画用紙や材料、用具なども自分で選べるようにする。 ・形や色、材料などの組合せや構成の美しさや面白さを楽しく考えるようにする。 ・それまでに働かせ、伸ばしてきた造形感覚や創造的な技能を一層働かせ高める。 ・表したいことに合わせて、足りない材料を他のもので代用することや偶然に見つけた方法を他の表現で試すこと。水彩絵の具を厚く塗り、それを削り取るなど表現方法を組み合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階にふさわしい物語の選定をする。 (主題) ・「冬のフェスティバル」でフェスティバルの楽しさや情景の美しさが表されているように、心を動かされた場面(はらはら、どきどきした場面、驚いたり、不思議だなと感じた場面、ジーンと感動したり、共感した場面等)を絵に表す。(主題) ・主題を明確に表すために、遠近や重なり、大小を考えた画面の組み立ての工夫をする。(構想) ・流れや動きリズムを表すために複数のものに規則性を持たせて配置する。(構想) ・主題を十分に表すことができるために画面の中心と周りのものとの位置関係を考える。(構想) ・動きや遠近を出したり、登場物を対比したりするために、色や濃淡を徐々に変化させながら同一方向に並べていく。(表現方法) ・光の明るさや美しさを表すために黄色と群青のように明暗を対比させ彩色する。(表現方法) ・幻想的な様子を表すために緑や青と白というように有彩色と無彩色を対比させる。(表現方法)
<p>イ 表したいことに合わせて、前学年までに経験した材料や用具、自分が選んだ材料、糸のこぎりなどの特徴を生かして使い、表現に適した方法などを組み合わせながら、絵や立体に表現したり、工作に表したりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したいことに合わせて材料を探し集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙の形、色、材質に目を向けて、自分の表したいものに合うものを使う。(材料・用具) ・鉛筆による線描きと水彩絵の具による彩色というように主題に合った用具を選び、組み合わせる。(材料・用具) ・細かい表現をするために、彩色した上にサインペンを使った線描きを重ねる。(材料・用具)

<ul style="list-style-type: none"> ・初めて使う用具は、使うこと自体を楽しむようにするとともに、使うことによってできた材料の形などの面白さから発想を広げる。 ・前学年までに経験した用具は使い方になれると共に簡単な手入れをしたり大切にする習慣をつける。 ・これまでに経験した表現方法や材料の生かし方などを組み合わせ、新たな方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したい様子（質感や動き、リズム）に合わせた点ぬり、線ぬりといった筆の使い方の工夫をする。 (表現方法) ・幻想的な雰囲気を表すために水を多く含ませ色をぼかして彩色する。 (表現方法) ・黄色の上に橙色や赤色、黄色の上に緑といった重色をすることで色を鮮やかにする。(表現方法) ・児童の作品交流を通して用具の使い方の幅を広げる。 (材料・用具)
---	---

心を動かされた場面～おじいさんのランプ～指導と評価の計画（全8時間）

造形への関心・意欲・態度（関）、発想や構想の能力（発）、創造的な技能（創）、鑑賞の能力（鑑）

	児童の活動	評価規準	学習活動における具体的評価規準	指導
想像を広げて線描きする活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語「おじいさんのランプ」に出会う。 (1時間) ・ランプの灯りを味わう体験や物語の読み聞かせをもとに心を動かされた場面をラフスケッチに表す。 ○ 自分の表したいものを明確にしていく。 (1時間) ・表したい場面を読み直し、アイデアスケッチに表す。 ○ 図工ノートと資料、画面構成ヒント表をもとに線描きをする。 (2時間) ・画面構成ヒント表や「おじいさんのランプ」資料集をもとに線描きする。 	<ul style="list-style-type: none"> (関) ランプの灯りの様子を五感を使って感じることができる。 (関) 心を動かされた場面を表そうとする意欲をもてる。 (発) 物語の中の「心を動かされた場面」をつかむことができる。 (発) 物語に登場する人やものを想像し、様子をアイデアスケッチに表すことで主題を明確にしていける。 (発) 物語を読んで心を動かされた場面を十分に表すことのできるような画面の構成を考慮することができる。 (創) 「おじいさんのランプ」から想像した表したい場面の様子を線描きしていける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランプの灯りから感じたことを話し合うことができる。 ・物語の中のいくつかの場面について絵に表したいという思いをもつことができる。 ・物語の中で表したいと感じた場面をラフスケッチに表せる。 ・物語の本文を読み直し表したい場面に登場する巳之助やランプといった人やものの具体的な形や色を絵や文で説明することができる。 ・自分が表したい場面にでてくる巳之助、ランプ、まわりの様子の関係を考えた画面の構成の工夫ができる。 ・アイデアスケッチに書きこんでいる自分の想像した世界を具体化させていける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・暗闇でランプに火を灯す体験を計画する。 ・児童が想像しやすいように物語を編集し、読み聞かせを行う。 ・心を動かされた場面をラフスケッチに表すことを提案する。 ・心を動かされた場面を詳しく読んでいけるように物語の本文を場面ごとに準備し、児童の表したい場面に合わせて渡す。 ・重なりや並び、遠近など、画面の組立てとその効果を考えられるような資料を提示する。 ・「おじいさんのランプ」の登場物を視覚的にとらえることのできる資料を提示する。

彩色する活動	○ 経験や資料をもとに主題に沿った彩色をする。 (3時間)	(創) 主題に沿った場面の様子を表すために、用具の特長を生かした彩色の工夫ができる。	・主人公の心情やランプの灯りの美しさを表すために、色づくりや筆の使い方を工夫することができる。	・混色や重色、筆の使い方によってランプの灯りが美しく広がった様子を表現するための資料を提示する。
鑑賞する活動	○ 自己評価し、作品交流をする。(1時間) ・自己評価したカードと共に作品を展示し、お互いの作品を鑑賞しあう。	(鑑) 作品を進んで鑑賞し、友達の已之助やランプに対する思いや思いにそった表現方法のよさを感じ取ることができる。	・物語を読んで表したかったことと、表現方法の工夫を関連させて作品を紹介したり、友達のよさを感じ取ったりすることができる。	・作品のよさを交流する鑑賞会を開く。 ・児童が互いに絵の主題と表現の工夫との関係やよさに気づける鑑賞カードを作成する。

本時目標

- 心を動かされた場面を思い出しながら表したいことを構想することを楽しもうとしている。
(造形への関心・意欲・態度)
- 「おじいさんのランプ」を読んで心を動かされた場面を十分に表すことのできるような場面構成を考えることができる。
(発想や構想の能力)
- 「おじいさんのランプ」から感じたものや想像したものを線描きすることによって物語の中の心を動かされた場面を表すことができる。
(創造的な技能)
- 友だちの作品を鑑賞し、そのよさを自分の活動に生かしていこうとすることができる。
(鑑賞の能力)

準備

- 図工ノート ○ 2B・4B鉛筆 ○ 評価補助簿 ○ 具体物資料 ○ 画用紙
- 画面構成ヒント表 (全体指導用・個人用)

本時の指導と評価の考え方

本時は、最初に前時までに取り組んできた図工ノートをもとに物語「おじいさんのランプ」を読んでから、児童があたためていた自分の表したいものを再確認することで、一人ひとりの表現意欲を高める。そして、児童が、画面の組合わせを工夫しながら自分の表したいことを線で表現していくことをねらう。

このねらいを達成するために本時では次のような手だてを計画した。

まず、最初に構成ヒント資料の準備と活用。これは、画面の組合わせの工夫とその効果を考えるための資料で、中心となるものと周りのものの関係を大小や重なり、並べ方を考えながら表していく。というものである。

次に、前時までには児童が記録してきた図工ノート及び具体物資料の活用。図工ノートには、児童一人ひとりが、おじいさんやランプに対する思いや、自分が表したい場面について物語の文章から読み取ったり、想像したりしたことをメモしてきた。これをもとに本時は、線描きを始める。また、具体物資料は、児童が表したい場面に登場する具体物の情報を補う資料である。

構成ヒント資料をもとに画面構成を考え、具体物資料を見ながら画用紙に線描きを進めていくことで、児童は、物語「おじいさんのランプ」で心を動かされた場面を明確に表現していくことができるようになる。

これらの活動を進めていくにあたり、それまでに児童の思いや見通しをつづってきた図工ノートをもとに資料を準備したり、児童への助言をしたりする。また、表したいものに似た傾向がある児童については座席をグループ化しておき、助言や資料提示が効率的に行われるようにしておく。さらに活動中、机間巡視をするなかで画面の組立てに工夫が見られる作品を見つけ、全体に紹介していく。

最後に、準備した図工ノートを活用して本時の活動や自分の作品をふり返り、次時の活動を見通すことができるようにする。

本時の評価にあたっては、自分が感動したものをはっきりと伝えることができるように強調・対比・省略といった工夫を選択し画面の組立てに取り入れることができたか、また、中心となるものと周りのものの関係を大小や重なり、並べ方を考えながら表していくことができるかを見取っていく。その方法としては、

- ①児童が画面の組立てを考えている様子を観察したり、下絵を見ながら活動の相談を受けていく中で見取る。
- ②児童が学習のまとめで書く図工ノートを見取る。

これらのことを通して、児童の次の活動への手立てを計画していく。

本時の指導と評価

学習活動と内容	学習活動における具体的評価規準	指導（活動提案・材料提供など）
<p>1. 資料の提示をもとに本時学習のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 思いを表現するための具体物資料集の使い方や鉛筆の使い方について考える。</p> <p>(2) 画面構成ヒント表から思いに合わせた画面の組合せ方の工夫を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間の生かした主張 ・重なりや大きさの対比による強調や遠近感 ・ランプや木々の並べ方によるリズム感 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【めあて】 自分の表したいものの中心を考えながら線がきをしよう。</p> </div>	<p>(発)</p> <p>○ 画面構成ヒント表をもとに自分の表したい場面に出てくる巳之助、ランプ、まわりの様子との関係を考えながら画面づくりを考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が表したいものが絵の中心となるように大きさや位置、重なりを考えることができる。 ・心を動かされた場面の様子を伝えることができるように周りのものの関係を大小や重なり、並べ方を考えながら表していくことができる。 ・鉛筆の太さを生かした線がきができる。 <p>(創)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを表現するための図工ノートや具体物資料の活用の仕方を指導する。（そのまま写す。大きさを変える。付加・削除する。） ・思いを十分に表現できるための画面構成ヒント表をもとに主題を明瞭にするための工夫を全体に指導する。 ・鉛筆の濃淡や太さの変化による作品の変化がわかる資料の準備しておく。

<p>2. おじいさんの生き方への感動や暗闇に浮かび上がるランプの灯りの美しさが伝わるような画面の組合せを考える。</p> <p>(1) 図工ノートをもとに画面の組合せの工夫を取り入れながら線描きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を活用して画面の組合せを考える。 ・友だちとの交流を通して画面の組合せを考える。 <p>3. 本時の学習をまとめる。</p> <p>(1) めあてに沿って活動をふり返り, 次時の活動への見通しをもつ。</p>	<p>○ 図工ノートのメモに書きこんでいる自分の感じたものや想像したものを資料によって具体化させることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体物資料をもとに自分の表したいものを詳しく線描きすることができる。 ・具体物資料を見て「おじいさんのランプ」に登場する人やものを自分の思いにあわせて大きさに変えながらで線描きすることができる。 ・図工ノートのメモを見ながら, 自分の思いにあった線の太さで登場する人やものをかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいものに同じ傾向のある児童はグループ化しておき, 助言や資料提示が効率的に行われるようにしておく。 ・机間巡視をしながら, 一人ひとりの物語への思いを確認し, 助言したり, 資料を提示したりする。 ・活動が進んだら, 画面の組合せに工夫が見られる児童の作品を紹介する。 ・本時の活動をふり返り, 次時の活動を見通すことができる図工ノートを準備する。
---	--	---